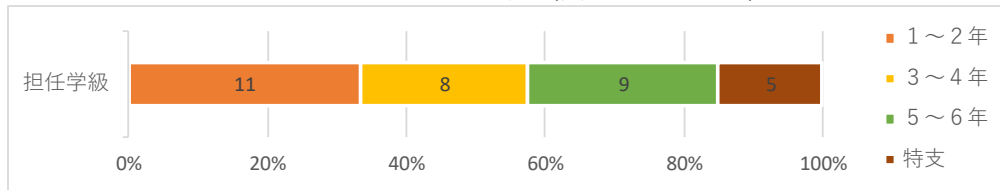
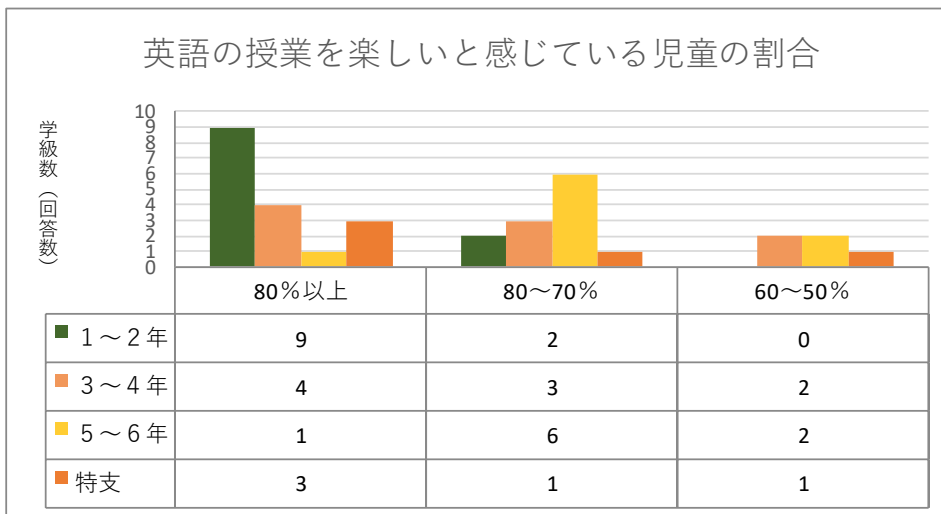


長洲町における英語教育の教育的効果調査【学級担任用】 集計結果

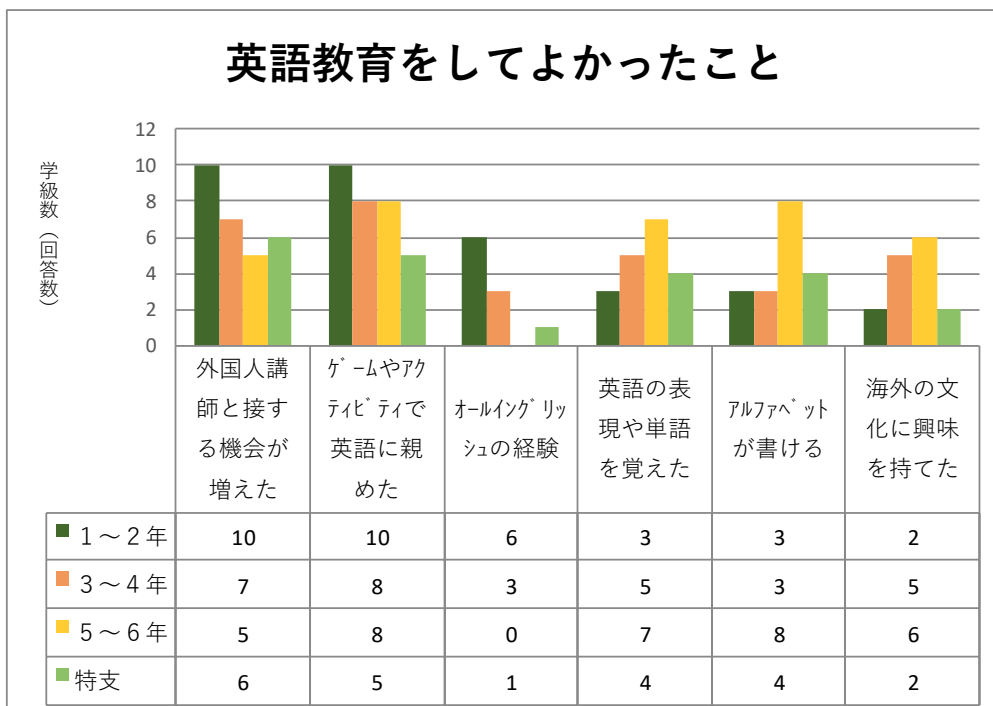
問1 あなたの担任する学級はどれですか。（回答者数：33）



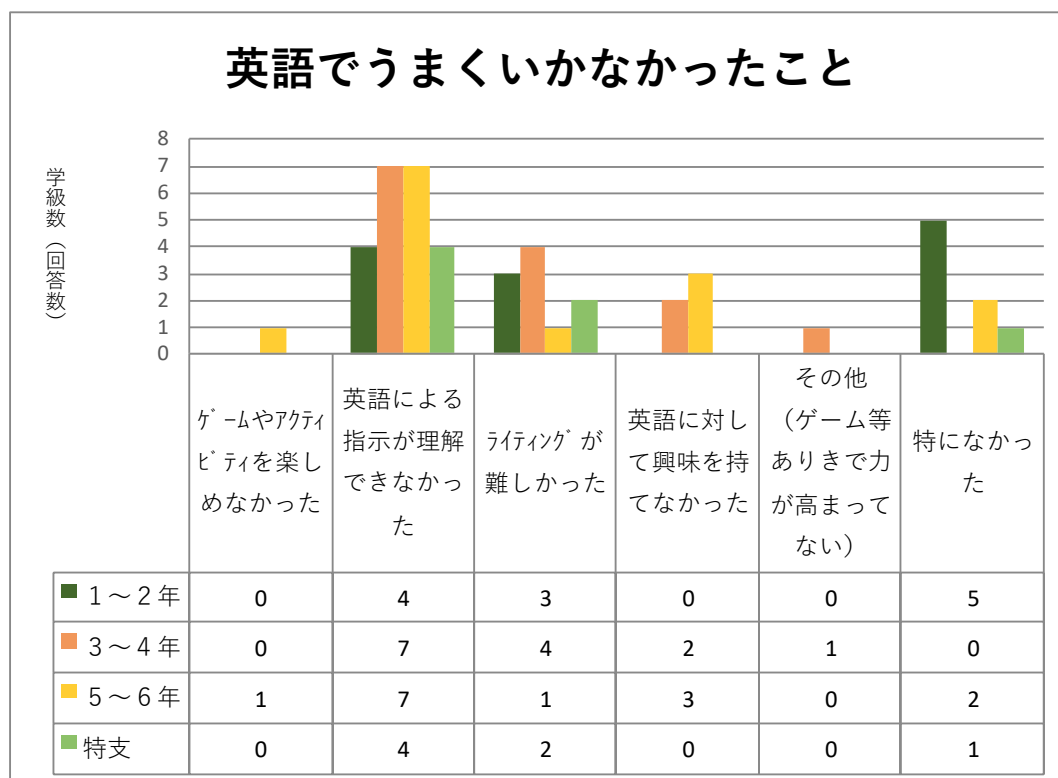
問2 あなたの担任する学級では、何%の児童が英語の授業等（Eタイムも含む）について楽しいと感じているようですか。



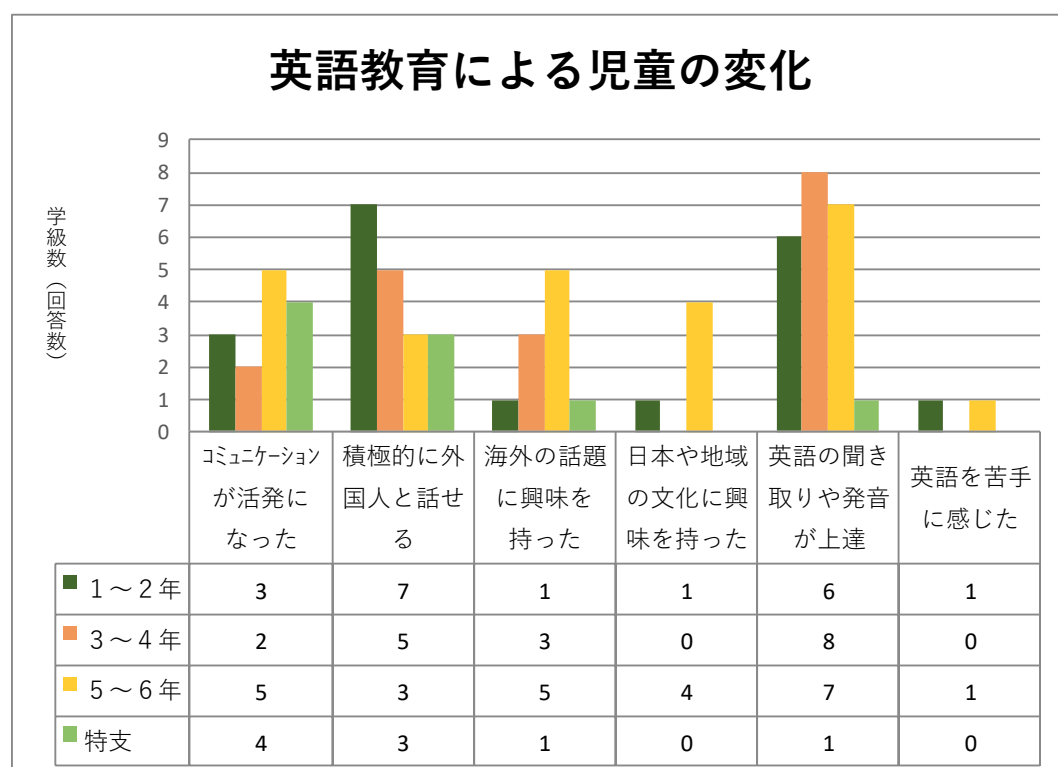
問3 あなたの担任する学級の児童にとって、英語の授業等（Eタイムも含む）をしていてよかったことはどんなことだと思いますか。



問4 あなたの担任する学級の児童にとって、英語の授業等（Eタイムも含む）でうまくいかなかったり、困ったりしたことはどんなことだと思いますか。



問5 英語教育によって、外国人に対する接し方や、海外への興味などについて、あなたの担任する学級の児童にどんな変化があったと思いますか。



問6 平成29年度から開始した長洲町の英語教育の取組の成果についてお尋ねします。

- (1) Eタイムを実施することにより、あなたの担任する学級の児童にとってどのような成果が表れたと思いますか。また、どのような課題がありましたか。(自由記述)

1～2年担任(11名)

- 外国語は毎日触れなければ定着しないので、帯で取り組むことは大切。毎日、英語に触れる、そのものが成果。
- 発音が上手になった。
- DVDを見ながら楽しく英語に親しむことができた。
- 英語に興味をもてた。喜んで参加していた。
- 英語での表現に親しめるようになった。
- 英語に親しむようになった。
- おもしろく、みんなで声を出して言ったり、歌も種類が多かったりして充実していた。
- DVDが楽しくてすぐ時間が過ぎていくようで興味・関心をもっていた。
- 英語の読み方が分かるという意見も出たので、役にたっているという成長と自覚を感じている。
- 外国の人とすぐに仲良くなれるようになった。
- 様々な表現に触れることができた。
- 楽しく活動していた。あいさつのやりとりを自分から進んでやろうとしていた。コミュニケーション能力がついてきているように感じる。
- 毎朝の準備が大変だった。

3～4年担任(8名)

- 英語に触れあう頻度が高くなったので、単語を覚えるスピードがはやくなった。
- ほぼ毎日英語に触れあうことで、自然に英語を話せる環境にある。
- 英語にふれる機会がふえた。聞いて答えることができるようになってきた。
- 歌を歌ったり、映像を見たり、楽しそうに英語の活動に取り組んでくれているのでよかった。
(子どもたちには特に課題はない。)
- 楽しんで英語に親しめている。語彙が増える。
- 学力的に厳しい子どもたちにはくり返し聞かせたり話させたりしているが、中々身につかないことがある。
- 朝自習の15分の読書の間に連絡帳をチェックしたり、集金日以外にお金を持ってくる子のお金を預けたり…などの時間がなくなり、いつもあわてている。
- 15分間の時間をとるのが難しい。
- 短い時間(朝の忙しい時間)なので、十分に時間を確保できていない。

5～6年担任(9名)

- 英語に親しむ機会が増え、苦手意識が減った。
- 英語に親しむ機会が多くなり、英語に対して抵抗感が減っている。

- なぞる、書き写すことに時間をかけて取り組むことができた。
- アルファベットに慣れてきた。
- アルファベットが書ける。
- ALTの発音を聞き取ろうと努力するようになった。
- リスニングができるようになった。
- 一部の子どもではあるが、分かる単語をひろって聞き取ることができるようになった。
- 簡単なあいさつ、会話ができるようになってきた。
- 英語でのあいさつ、曜日、天気等の言い方が普通にできるようになった。
- 週3回継続してEタイムがあることで、日常的に英語を聞いたり発音したりすることができる。
- 15分で毎回のEタイムを充実させるのはかなり難しいと感じる。
- 苦手な子どもにとっては、朝一のEタイムはつらいようだ。

特支等担任（5名）

- ゲームや歌などで楽しく英語に親しみ、耳から入って覚えられていった。
- 繰り返し見ることで単語を自然と覚えている。
- 英単語を覚えられた。スポーツや食べ物など。
- 英語に触れる機会が増え、ネイティブな英語の聞き取りができるようになってきた。
- ミニゲームなどで英語を耳で聞いてまねして言ったりしてよかった。
- 作業に時間がかかる。（特支のため）英語をする時間が少なくなった。

(2) NT（1～4年生を担当している Native Teacher）を導入することにより、児童にとってどのような成果が表れたと思いますか。また、どのような課題がありましたか。（自由記述）

1～2年担任（11名）

- ネイティブでオールイングリッシュに抵抗感が全くないこと。小さいころからそれがあたりまえの環境になっていること。
- 外国人の先生への抵抗感（？）が減っている。
- ネイティブの会話を聞くことができた。
- ネイティブな発音に親しむことができた。
- 発音を聞き取ることが上手になった。
- NTとの授業を毎回楽しみにしていた。
- 英語が分かるようになり、楽しくがんばることができていた。
- ゲームを通して楽しく英語や会話ができるようになってきた。
- 積極的に話しかけ、正しい発音に近い発音ができるようになってきた。
- 英語に興味・関心が持てるようになった。
- アウトプットが少ないかも。会話のトレーニングとか。

3～4年担任（8名）

- ネイティブな発音で会話をすることができる。
- ネイティブな発音ができるようになった。
- ネイティブな発音を聞けるため、より正しい発音ができるようになった。
- 発音がとても上手になる。
- 正しい発音を聞くことで英語の聞き取りや発音がうまくできるようになってきた。
- 楽しいゲームを通すことで、英語＝楽しいという動機づけができています。
- ネイティブな英語に親しみ、聞くことに慣れてきた。
- 英語を楽しむことができた。
- 英語に慣れ親しみ、外国の人とふれる機会があったことはいいことだと思う。
- 本物の英語に触れることができた。
- 発音が正しく、恥ずかしがらずに英語を話せる。
- 動く活動（ゲーム）は盛り上がるが、力が高まっているかが疑問。
- オールイングリッシュであるので指示などが伝わらずに何をしたらいいのか、どうするのかわからないまま活動している。
- 指示や発問を理解するのが難しそう。
- 学力面では効果に疑問がある。（ゲーム自体に夢中になって身についていない。）力がついていないのか。
- 学習規律が乱れてしまい、授業に集中できない場面もあった。

5～6年担任（9名）

- 英語が身近になる、楽しいものと知る、感じる。
- 発音がとてもよい。幼い頃から英語を聞いたり発音したりすることは、確かに効果的である。課題はあまり感じない。

特支等担任（5名）

- アルファベットを書くとき、工夫した覚え方（書き方）をさせられるので、特別支援学級の児童も楽しみながら授業を受けていた。
- ゲームを楽しみ、単語を覚えた。
- 英語を聞き取ろうとしていた。
- ネイティブな英語の聞き取りに慣れてきた。
- ミニゲームなどで英語を耳で聞いてまねして言ったりしてよかった。
- ライティングがむずかしく、オールイングリッシュの時、ついつい日本語で補足説明したりして、それはあまりしてほしくないと言われて、その部分が難しかった。
- ゲームのやり方等、オールイングリッシュでは、やはり分からない子が多い。結果説明は英語でやっているが、ゲームのやりとりの中で正しい英語を活用している児童は少ない。

(3) 英語専科教員（5～6年生）を導入することにより、児童にとってどのような成果が表れたと思いますか。また、どのような課題がありましたか。（自由記述）

1～2年担任（11名）

- ちゃんと教材研究されたすばらしい授業をうけられることそのものが成果。担任だったらそのまま
で充実した授業はできない。
- より良い発音での授業を受けることができた。
- 発音などが上達した。

3～4年担任（8名）

- 担任の負担が減る。
- 担任の教材研究の時間があったことは結果として子どもたちの学力にもつながったのではないか
と思う。
- 担任が児童とともに英語教育を学ぶ機会がなくなる。（専科に全てを任せるとはなく、授業をコ
ーディネイトしてもらったり、教材を準備してもらったりして担任も少しでも授業に参加した方
が、力量が高まるのではないかと思う。）

5～6年担任（9名）

- 外国語ってこういう学習か～というイメージが子どもたちの中に定着した。
- 本物の英語（英会話）に触れる機会があり、とても興味を持って学習に取り組めた。
- オールイングリッシュ、スムーズで専門的な授業展開。
- 週1時間をしっかりと積み重ねている。
- パフォーマンステストやライティングなど中学英語につながるよう、専科の先生、ALTが工夫
していることが効果を生んでいる。学級担任にとっても学ぶ事が多く、勉強になっている。
- 専科の先生、ALTの負担が大きくないか。

特支等担任（5名）

- 英語を話そうとする姿がみられた。
- 英語を聞き取れるようになった。
- 英語に苦手意識がなくなったと思う。